みいけ主婦會

※原稿の送り先
大牟田市不知火町二丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき
市内三〇三三・七一四〇
炭鉱　四七四・五二八
※責任者　文教部長
川畑　信子

生命を　生み、育てる母親は守る責任と権利がある

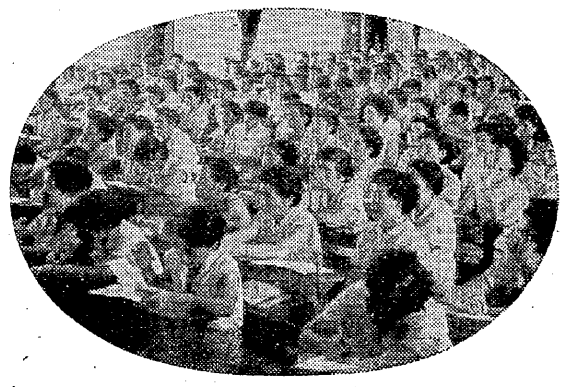
第五回日本母親大会　22日開かれる

第五回日本母親大会はきたる八月二十二日から三日間、東京で開かれます。一万二千人の参加が予定されていることしの大会は、第一日に五会場で問題別集会を、第二日は五十会場で分科会を、第三日は全体会議を行いますが、全体会議終了後に参加者全員による〃母親の大行進〃がおこなわれることになっています。

母親大会五年の歩み

ことしで第五回をむかえる日本母親大会は、一九五四年十一月、世界六十五カ国一億三千五百万の婦人を組織している国際民主婦人連盟が、子どもと平和を守るために世界母親大会をひらこうとよびかけたのにはじまります。「生命をうみ、育てる母親は、生命を守る責任と権利がある。子どもを原水爆からまもるために、世界じゅうの母親は団結しよう」というのがそのよびかけでした。

翌五五年六月七日から三日間、東京ではじめての日本母親大会をひらきました。北は北海道から、南は奄美大島まで、徳島県をのぞいた全国各地から二千余名があつまり、子どもと平和を守るためにどうすればよいかと真剣に話しあいました。母親の新しい歴史はこうしてはじまりました。ついで七月七日から四日間スイスのローザンヌで第一回世界母親大会がひらかれ、日本の代表十四人をふくむ六十八カ国から一千六十人の母親が参加しました。



平和で幸せな母親

この世界母親大会の報告は、日本のすみずみまでゆきわたり、大きな感動をよびおこしました。四、五人の小さな集りから、千人をこえる大きな集会まで一千六百九十九回もひらかれ、報告をきいた人はのべ三十五万七千人をこえました。この運動は各地に女教師と母親の会や、働く婦人の集いなどをたくさん生み、そして翌年の第二回母親大会に反映されました。第三回には参加者も六千人をこえ、原水爆禁止世界大会に出席のため来日中の中国、ソ連、イギリス、フランス、スエーデンの婦人代表も出席しました。昨年の第四回大会は規模も内容も豊にふくれあがり参加者は一万人を数えたのです。子どもをすこやかに育て、もつと幸せな母親となり、平和を守るために手をとりあつてすすみましようとの誓いをあらたにする、母親大会はもう間もなくひらかれるのです。

もう少しやすく（会員）

みんなのものにしたい（執行部）

七月二十三日労働会館で、九大講師相原先生を招いて主婦会の年間行事である婦人講座「社会情勢と企業整備の背景について」を勉強しました。

初めての計画で大変心配しましたが、会員の皆様の熱意により多数（三五〇人）の出席をみましたことは本当にうれしいことでした。内容は独占資本の解説より生産性向上運動がどのように企業整備に影響するかを具体的に説明がなされました。一部の会員より少し難かしいという声もありましたのでその点も考えて今後もわかりやすくみんなのものになる内容で毎月一回講座を続けて行きたいと思います。

次回はまだ未定ですが、日時決定しだい、会員皆様さそい合わせて御出席を主婦会文教部ではまつています。

出席者の感想

○　はじめて出席しましたが、やはりむづかしいと思いました。もつと基礎的なものが必要ではないでしょうか。

○　専門的な言葉の説明と、プリントか印刷物でも配布していただければもつと理解が行くと思います。

話合の場として

夕飯を終つて夕涼みのひとときに、班長さんの回いていつた「みいけ」を手にとる。平和大行進、ひしひしと胸にひびく。激化した組合対会社、今度こそ、生か死か、別れ道の闘争だ。しつかり「ハチマキ」をしめなおして、主婦もがんばらねば……と考へさせられた。

一ページ、二ページ、三ページ、これに反し、ちよつと意外に思われた「みいけ主婦会」のなかの姿見である。これを読んで私と大分考へ方がちがう、どちらの考へがいいか、悪いか、これは私にもわからないが、私は私なりで井戸端会議は良いことだと考へていたからである。

なぜならば、井戸端という気安さから、思つていることを、何んでもしやべる。井戸端会議であつても、これは立派な話合いの場となるからである。家のなかで、一日中本を読むことも大変必要な良いことには違いないでしようけど、私は一人でも多くの人と話しをしたいといつも思つています。「井の中の蛙大海を知らず」のことわざのように、家にばかりいても、世の中のことはわざわざ人は知らせてくれません。自分自身で知らねばならぬのです。

井戸端会議には、人の悪口もまた家庭内の非難も、多少はあるでしよう。しかし、これはこれなりに「人のふりみて我がふりなおせ」のたとえ通り自分自身の批判、または我が家の批判となつて考へさせられる良い材料となるのではなかろうか？

人の心、考へは、黙つて見ても決してわからない。人とのまじわり、これによつて初めてその人の良し悪しがわかるのです。私は井戸端会議によつて、とても勉強になるような気がします。集団生活をする者にとつて一番大切なことは人と人との和この和がなければ、明るい生活も、明るいふん囲気も生まれてこないでしよう。この和をつくるためには、数多くの人と接する、これには膝のこと、何々の集りというより、私たちにとつて一番身近かで、一番親しみやすい井戸端会議が良いのではないかと思います。

この井戸端会議によつて、人との和を結び、またその人を見ぬく心のめが養つていけるのではないかと考へる。世の中は、本の上の勉強や、自分の考へ通りにはならぬもの、これは人と人との集りで、多くの人と接するよう心がけねばならぬのである。これには井戸端会議でも、良い話し合いの場になるように私には思えてならないのだ。

万田社宅　一主婦

（楽しそうに給食をうける子供たち）

母親教室（4）

晝寝の利用

幼児や学童は、大人の七時間から八時間の睡眠時間に対して、十時間から十三時間を必要とします。昼間が長く夜の短い夏季は、子供にはどうしても一・二時間の昼寝がほしいものです。この際、注意することは、眠ると筋肉がゆるみ、呼吸が少くなり、手足や腹部に充血が起ります。ですからこの部分を露出していればカゼをひいたり、下痢をおこしたりします。睡眠時間は、一日でもつとも暑い十一時から二時ごろが適当です。また忙しい主婦にとつても一時間くらいの昼寝は健康を保つうえに望ましいものです。しかし、あまり長時間とると夜の睡眠のさまたげになりますから、三十分くらいとるのがよいでしよう。

社宅の泉水と水道

"水"をめぐる二つの問題

夏と水はつきもので、切つても切りはなせないものです。水についてのいろんな出来事は夏に起つて来ます。もつとも悲しい水死、一番困る水による病気、いろいろあげると、たくさんありますが、私たちの生活に関係ある社宅での水に対する二つの話題をひろい意見を聞いてみました。

飯もたけない

▽その一…先ず一番は各戸水道の問題です。主婦の家庭生活の合理化と重労働から少しでも解放するのは、共同水道よりも各戸水道がよいということはよくわかります。

労働組合でも会社と交渉し、共同水道の社宅をこれまで三・〇〇〇戸ほど各戸水道にしています。

三十四年度上期も六〇〇戸するようにいまはなしがすゝんでいますが、このまえから問題になつているのは、自費で各自の家に水道をつくつている人が沢山います。それが各自バラバラで無計画になされているため、勝立のような高い所、低い所に社宅のあるところでは、八、九月の渇水期には全然水が出ず、洗濯どころか、飲料水にも困るということが起り、何んとかして下さいと組合に持込まれています。この問題については、厚生部が中心になつて対策をたてていますが、現地の主婦会の人の声を聞いてみました。

八、九月が悩み

勝立とくに紅葉ガ丘分会は高所にあるため水の悩みも深刻です。一昨年の夏、水道のメインパイプを取替えるまでは全く水地獄に悩まされつづけだつた。

一番方で出勤する夫のため早起きして、さて炊事の用意をしたところ水が出なく、弁当も持たせず送り出した家もあります。とくに二十棟から三十棟ぐらいまでが一番高所にあるため、ひどかつた。

夏になると各家庭で使う水量もピーク（頂上）に達します。主婦の悩みもこれに比例してピークに達するのです。

ある主婦はこういつています。

パイプを取替えて貰つてからは水の出もよくなりました。それまでは、朝洗濯しても水圧が低いため、洗濯の終るのは昼過ぎになるのは普通のことでした。水貰いに一番下のクラブまでいつたことがあります。

また、他の主婦も

下の組の方では水をジャンジャン使つて薄掃除を気持ちよくやつているのに、こちらは水が全然出ない。掃除どころではありませんでした。よく「上の方にいる人間の気持になつて貰いたい」とグチつたものでした。

ときには上と下と交替で住いを変つて貰いたいと冗談でなしに話合つたものです。

と当時のもようを語つています。

パイプを取替えたとはいつても、いまのところまだ大して水圧も落ちず水の出もよいが、これから八月、九月となれば、行水をしたり子供たちが海水浴にゆくかわりにタライで水をつかつたりするためたちまち水圧が落ちてお手上げの状態になるといいます。

また、他分会で各個水道を自費で引いているところが相当あり、そのための影響がひどいそうです。

この問題は分会でも当然取上げて他分会とこの水のことについて、話合つたこともいままでにあるがいまだに解決はついていません。

那須分会長は「いまはまだ水圧も落ちていないが、これから水を使う量が多いため、水圧が落ちてくる。パイプを取替える前までは深刻な悩みだつた。今は多少緩和されたとはいえ手放しでは喜べない」

他分会と各個水道の問題などで話合つたり、支部の委員会などにもこの問題をもち出しているが根本的な解決はついていない」と語つています。

問題はまだこんどにのこされていますが、一日も早く紅葉ガ丘分会の人たちが心配せずに夏をすごせるように、なりたいものです。

▽その二…二番目の問題は、暑い夏を安心して子供たちに水遊びをさせようと無理して、泉水兼水遊び場を緑ガ丘などでつくつてありますが、これに対して、経済的にもつくつてやれぬ親の気持、また水を泉水などに使つてはもつたいないなどいろいろの意見があります。その一つ一つの意見もよく聞くことが、ころばぬ先の杖ともなろうと思いみなさんの声をひろつてみました。

「近ごろ檜町ではどこの家も泉水をたくさんもつていますが、とくに子供をもつ母親の気持ちを考えてつくつて下さい。社宅では一所がつくると張合つてつくりますがこれが社宅の悪いクセです。水も共同水道ですからお互いに心を合せなければならないのではないでしようか」

「近ごろ泉水がいたるところにできています。とくに子供の遊ぶのにと、大きなプールもできています。どうか近所の子供にも泳がせてやつて下さい」

「小さい子供を持つ親は心配でなりません。水死した子供を何年か前にみてきた私はまたとくべつです。各自十分注意して小さい子供は絶対はいれないよう、それだけ設備をお願いします」

などの意見が主であつた。

泉水のある主婦はこういつていました。

子供が入らないよう監視の目を光らせています。うちではよく垣をして注意していますし、よその子も危いから水には入らないようにいつています。

泉水のない主婦はこういつています。

こういうことでいろいろいたくはありませんが、先月など雨が降らず水不足のときは、泉水の水の入替えなどみて「もつたいないな」としみじみ感じました。社宅の共同水道でもありますので、よくよく考えて、つくつて貰いたいと思います。

またある主婦は

子供が一番心配です。去年までは泉水も少かつたんですが、ここ二、三カ月のうちにつぎつぎとできました。

よその子供が泳いでいますと、どうしてもうちの子供たちも行きたがります。泉水の水もしよつちゅう変えるわけにはいきませんでしようから、衛生上から考えると身ぶるいがします。

絶対泳がせないようにお願いしたいものです。

（上）大きな泉水と（下）水圧の低い水道

草とり作業

紅葉ガ丘の主婦達

主婦会紅葉ガ丘分会では七月二十八日総出で、社宅周辺の草とり作業に汗を流した。

この草とりは毎年おこなわれている作業で、分会内の環境衛生を浄化しようという趣旨。いぜんは、各人の家のまわりだけしかやつていなかつたが、いまでは人の通らないような小道の雑草から、幼稚園の周辺まで清掃するという念の入れかたである。